

こうげい

誠実 元気
信愛 規律

●1年を振り返って

築地工芸会会長 大賀 勉

様の笑顔を拝見し、あらためて工芸高校卒業生の活動領域の広さ、深さ、そして今も続く強い絆を感じた次第です。

昨年、会長にご指名いただき早いものでほぼ1年が経過いたしました。この間理事や会員の皆様には、大変ご協力、ご支援いただき有難うございます。おかげさまで記念講演会や総会、そして卒業生作品展などでは、なんとか順調なスタートを切ることができました。

とりわけ担当であったG科中堅、若手理事が積極的に活動していただいたことに深く感謝しております。また、昨年秋季には中京工芸会、関西工芸会にも参加させていただき楽しい交流が出来ました。東京を離れた地域での同窓生皆様の活躍ぶりや参加された皆



一方、当初考えていた会報誌、ホームページのリニューアルは、未着手になつており反省する次第です。会報誌やホームページは、会員の皆様に築地工芸会の活動内容や母校の動きをお伝えするコミュニケーションツールとして、大切であると考えております。

しかしながら、それ以上にこの1年を通して感じることは、社会環境や母校の変化の中で築地工芸会はそもそも何を目的にして、どのような活動をするべきなのか、まさに原点に立ち戻った議論とそれをベースにした活動が必要になってきたと思います。詰まるところ会員の皆様、各理事の皆様が、築地工芸会をどのような思いで、これからをどうしていきたいのかということに尽きる気がします。わざわざ仕事の合間を縫って理事会に出席していただいている理事の皆様も多くの方々は、きっと母校で学んだことに感謝し、母校のためにお役に立てればという思いで、参加していただいていると思います。

す。大変貴重な思いです。まさに一人一人が同窓会で今後どんなことをしていきたいのか、思いや願いがあつて活動の達成感も味わえるのではないでしようか。そしてそのことは新たな会員が参加していただける機会も増えるのではないかと思います。

以下、現状認識と2年目に向けた課題について

1. 築地工芸会の意義、目的の明確化と、活動内容の具現化

過去の懐かしさを顧みるだけでは、存在意義はありません。母校の発展に寄与するため同窓会として何をすべきか、理事の皆様と議論を重ね明確にしていきたいと思ひます。

2. 一般財団法人築地工芸会工芸基金運営(以下工芸基金に省略)の明確化

過去、築地工芸会の諸先輩が残していたいただいた財産を管理、運営しているのが工芸基金です。築地工芸会と工芸高校職員から選出されたメンバーにより運営され、毎年学校活動支援として予算が確保され、執行されていきます。大変貴重な予算ですが、運営方法に問題がありました。情報共有と適切な運営方法に改善していきます。

3. 理事会メンバーの若返り

同窓会を活性化するためには中堅若手を中心とした活動に切り替えていくことが必要だと思ひます。昨年の総会、卒業生作品展活動では中

堅、若手理事が大変活躍していただきました。そして在校生に近い感覚はさらに組織を活性化する可能性を持っています。動きやすい環境をどうしたら作り出せるのか、全員で知恵を出さなければなりません。

4. 新規会員の入会促進

築地工芸会の意義、目的や実行内容を明確にする。また、工芸基金の運営を通して学校側と情報交換を密にする。そして若手理事が動きやすい環境作りを理事皆さんで作り上げ活動していけば、新規会員が増える環境になるのではないかと期待しています。その活性化があらたな知恵と人材を育むのではないかと思ひます。

以上、1年間を通して課題と、今後の方向性を整理してみました。築地工芸会のさらなる発展のために皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

「投稿を歓迎します。」

*皆様の個展・展覧会出品・受賞、新聞で紹介された等、ご活躍の様子をぜひお知らせ下さい。写真、案内状等もできるだけご提供下さい。

*クラス会の様子もお知らせ下さい。

郵送先・築地工芸会(工芸高校の住所)
メール送付先: taquya@nifty.com

岡田里美 (平1・I卒) 築地工芸会 副会長	磯野祥 (平1・A卒) 築地工芸会 副会長	五反田稔 (昭35・M卒) 中京工芸会 会長	丸山士郎 (昭43・A卒) 関西工芸会 会長	大賀勉 (昭45・P卒) 築地工芸会 会長
細江邦雄 (昭41・M卒) 築地工芸会 監事 (有)ステーション・エム 代表取締役			梶広幸 (昭44・D卒) 築地工芸会 副会長	佐々木慎一 (昭48・P卒) 築地工芸会 副会長
中村輝雄 (昭38・P卒) 築地工芸会 理事 「水平開きノート®」発売元 (有)中村印刷所 代表取締役	撮影・神山隆夫 (昭43・A卒)		桜井洋一 (昭43・F卒) 築地工芸会 理事 (株)スパイク 代表取締役	坂巻章雄 (昭55・A卒) 築地工芸会 理事 (有)坂巻工芸社 代表取締役
荒井拓哉 (昭35・D卒) 築地工芸会 理事	神山隆夫 (昭43・A卒) 築地工芸会 理事	中山清 (昭33・M卒) 築地工芸会 理事	駒村武夫 (昭40・D卒) (株)ソフケン 代表取締役	茂木益雄 (昭30・P卒) (株)フォレスト 会長

技術資料の制作
 取扱説明書
 マニュアル
 翻訳
 テクニカルイラストレーション
 3D
 音楽
 通販

PLANNING CENTER
 STATION.M
 有限会社ステーション・エム

Instruction manual
 Service Manual
 Translation
 Technical Illustration
 3D
 Music
 Mail-order selling

有限会社 ステーション・エム
 代表取締役 細江 邦雄(M41)

本社 〒162-0828 東京都新宿区袋町25細江ビル
 電話 03-6280-8455 FAX 03-6280-8456
 http://www.station-m.co.jp/ e-mail: hosoe@station-m.co.jp

I.F.パートナーズ特許事務所

弁理士 中山 清
 (昭33年M科)

〒101-0064
 東京都千代田区猿樂町2-8-16
 平田ビル8階

電話 03-5577-3025
 FAX 03-5577-3027
 Email nakayama@ifpat.gr.jp

事務局より

◎一般寄付・ご芳名

昨年7月24日以降、本年2月28日まで、ご芳志をお寄せいただいた方々は次の通りです。どうも有難うございました。(順不同・敬称略)

打越長武、佐藤守克、佐野一義、井部早苗、春山文典、山田肯佑、塩崎恵一、大山栄一、福田満、山田実、中代源次郎、今井定義、関根伸司、長堀映司、細江邦雄、上口睦人、栃木靖男、萬羽進、栗原松男、渡辺貴夫、大場康博、大滝史博、佐味實義、橘正春、神戸道夫、牧野昇、中村輝雄、中澤美佐子、平井光吉、佐野一義、森實、内藤亮一、長井豊、内藤亮一、松村晃子、鈴木直子、古木嘉雄、能登崇行、丸山士郎、小川千秋、林佩誼、熊澤ひより、平野湊太郎、中村輝雄、小山清一、磯野祥、日置雄毅、荻野博、村田恵子、長井豊、秋葉利子、永坂景子、五十嵐智則、石井あづみ、高田愛子、杉本眞有子、小松佑、渥美伽南、須坂嘉允、林正二郎、佐々木勉、渡辺昇平、山増智子、甲賀真人、麻生美郷、大野文栄、大川浩一、坂巻謙一、宇都木邦明、小川政之、久保田晃、久保田真奈美、間中辰男、和田勝、畑中ひと美、片岡良亮、山崎真子、久保木菜摘、新村富雄、紅林正司、新海香里、曾我部上、田口寿恒、前田竹明、岩下彰子、渡辺義太、松本七五三吉、小川政之、杉本弥和子、大久保健二、佐藤友美、池田博、畑中ひと美、佐藤貴志

2019年度累計

四一四、三〇〇円

◆2019年度第2回理事会報告

2019年10月23日、母校会議室において2019年度第2回理事会が開催されました。

議事に先立ち、次の新理事と理事退任が承認されました。

新理事 G科 久保 遊(平成16年卒)
退任 M科 中田 実(昭和29年卒)

●議事

1. 2019年度 総会 報告

①事務局より出席者数、招待者、収支会計について報告された。

②大賀会長から次のコメントがあった。

築地工芸会全体で行い、意義のある総会となった。中村さんの記念講演は、経済が停滞している中、前向きでエネルギーリッシュな素晴らしい講演だった。講演会を通して仲間意識が高まり、築地工芸会の発展にも繋がった。

2. 2019年度 収支中間報告

事務局から収支中間報告が行われた。予算に対しては妥当な中間収支であるが、会費収入(会員数)を増やすことが必要であると報告された。

3. 会員登録数 状況報告と対応について

①新卒業生への入会案内について
②会報「こうげい」の発送について

4. OB展示について進捗状況報告

11月にI科の展示からP・G科の展示に変更することが確認された。

5. その他

①学校運営評議会報告

②工芸祭のプログラムに「OB・OG展示コーナー」のPRを掲載することが報告された。

③工芸基金運営の見える化について

●G科 OB・OG作品展示

母校1階におけるOB・OG作品展示はG科の作品を展示しています。ぜひご覧ください。G科の次はM科の作品展示を予定しています。



訃報

前回の会報174号以後、本会宛正式にご連絡がありました方々は、次の皆様です。ご冥福をお祈り申しあげます。

(一)内は逝去された日です。
牛込 源晃氏 旧職員(R2・2・4)
小島 新一氏 昭17・A卒(H27)

プラスチック 金型製作

真空成型型 プレス抜型

圧空成型型 トムソン抜型

企画デザイン — 試作 — 本型製作 — 成形立上げ

V・MOLD バキュームモールド工業株式会社

本社・〒131-0031東京都墨田区墨田5-23-11
tel 03(3614)1556 fax 03(3614)1559
埼玉工場・〒340-0831埼玉県八潮市南後谷107-5
tel 048(932)5440 fax 048(932)3960

-詳しくはホームページで-
<http://www.vmold.co.jp/>
e-mail caduser@vmold.co.jp

酒寄 昇一氏	昭20・M卒(H31・1・7)
山田 周司氏	昭20・M卒(R2・12・30)
山口 積善氏	昭26・F卒(R2・1・16)
海津廣太郎氏	昭28・F卒(R2・1・12)
杉山 和彦氏	昭29・F卒(H31・2・27)
濱田 眞隆氏	昭29・F卒(R1・10・21)
滝澤 方美氏	昭29・D卒(R1・10・20)
大澤 康道氏	昭32・F卒(R2・1・3)
川本 昭一氏	昭34・M卒(H30・9・1)
横尾 浩氏	昭34・M卒(R1・11・16)
針谷 明氏	昭36・M卒(R2・1・30)
黒沢 雅之氏	昭49・F卒(H31・4・12)

支部だより

第56回中京工芸会総会を終えて

令和元年（2019年）第56回中京工芸会総会が11月17日（日）に恒例の場所である、名古屋城に隣接した能楽堂の敷地内の日本料理「大森」にて開催されました。長い間ご尽力頂いた下山田会長は名誉会長へ、ずっと陰ひなたで支えて頂いた五反田さんの新会長への就任総会でもありました。総勢14名での開催ではありましたが、東京から築地工芸会大賀会長（昭45年P卒）工芸高校前田校長、元築地工芸会会長細江さん（昭41年M卒）特別会員岩崎さん（昭35年M卒）にお越し頂き、関西工芸会からも丸山会長（昭43年A卒）と事務局の松田さん（平13年A卒）にご参加頂きました。昨年より新副会長に就いた岩佐さん（昭40年A卒）のスムーズな司会で前田校長の母校情報に東京へ想いをはせ、丸山・松田両人の出合いのエピソードのお話から翌週の関西工芸会へも気持ちが傾くような盛り沢山な交流会でした。

久しぶり

に出よう
かーちよっ
と出てみた
い！また来
たい！そん
な会にした
いですね！
そのお手伝
いはどの様
にいたしま
しょうか？



第56回中京工芸会 総会

請願御力拝借

今期より事務局を担当

井上（旧姓今泉）京子（昭50年・F卒）

●下山田会長退任

第56回中京工芸会総会にて、下山田前会長の功績に、感謝の気持ちを込めて花束を贈らせて頂きました。

下山田会長退任の挨拶

故津久井先生が昭和39年に作って頂いた中京工芸会が56回を迎えました。創立以来一度も休むこと無しに続けて来られたのも皆様の御蔭と心から感謝しております。

私も27年間、会長を務めてまいりましたが、来年には90才になります。その間、副会長の五反田さんに支えられ、何とか務めて参りました。しかし寄る年波で体調も思うようになりませんので、会長を辞退致したいと思いました。

長い間有難うございました。

下山田信一郎（昭23年・M卒）

下山田会長に感謝します。

昭和39年中京工芸会発足以来、14年間の副会長、27年間の会長、合わせて41年間実質の会長を担って頂きました。

もう90才前だったのですね。私達後輩は甘えていました。



下山田会長ご退任記念

歴代会長および諸先輩が築いて頂いた「中京工芸会の灯を消してはいけない」という想いを抱き、二人三脚で繋いできました。途中、会を解散することまで相談しましたが、これ迄の歴史を振り返り、想い留めましたね。今後は体調を整え、名誉会長として大所高所に立った叱咤激励を頂きたいと思えます。そしてあの一杯を飲むときの右手のしぐさと、嬉しそうに目を細めた笑顔を見せて下さい。

この度、下山田大先輩の後継会長に御指名を頂きました。微力では有りますが、「中京工芸会の灯を消さない」という想いを大切に、岩佐泰樹副会長（昭40年D卒）・井上（今泉）京子事務局（昭50年F卒）と共に、後継に繋ぐ時期を逸しない様、皆さんと仲良くやっていきたいと思えます。

中京工芸会会長

五反田 稔（昭35年・M卒）

●中京工芸会節分会

令和2年2月3日（月）節分の日に恒例の「中京工芸会節分会」を名古屋めしの1つの「うなぎ櫃まぶし」で有名な「うなぎのしら河浄心本店」にて17時30分から開催しました。

昨年11月にご就任頂いた新会長の五反田 稔さん（昭35年M卒）、同窓の安藤 孝久さん（昭35年M卒）、建築関係の仕事をされている畑中 ひと美さん（昭42年P卒）、本年度より事務局を担当して頂いている井上 京子さん（昭50年F卒）と私、岩佐（昭40年D卒）の5名で、中京工芸会の課題や進むべき方向性などについてざくば

らんに、話し合い楽しいひと時を過ごしました。

井上さ

んは、畑中さん、

今回所用で欠席された長谷

川 充さん（昭50年D卒）や野村 敬



中京工芸会 節分会

子さん（平11年A卒）を加え、女子同士で連携する、「中京工芸会女子会」を立ち上げ、助け合いながら活動して頂いています。今後が益々楽しみです。今年の総会を以下の通り開催することを申し合わせしました。

日程…令和2年11月15日（日）12時～

会場…日本料理 大森（昨年と同じ）

9月には詳細のご案内をする予定です。

平28年の会員名簿にて中京工芸会の若い会員候補の在住が明らかになったのですが、活動参加にまでは至っていません。

新会長の想い「中京工芸会の灯を消さない。」を確かなものにするためにも、若い力を結集できるよう参加勧誘活動に努力したいと考えているところであります。

当日の盛り上がりへの締めには、「日本料理 大森」の女将と若女将による日本の風習「節分会」に因んだ、能の「翁」と「楊貴妃」に見立てた艶やかな衣装を身にまとったお祝いの訪問

を受け、記念撮影をしてお開きとしました。

中京工芸会副会長

岩佐 泰樹（昭40年・D卒）

●令和元年関西工芸会の集い

昨年の11月30日に第59回目となる《関西工芸会の集い》を大阪スカイビル39階中国料理「燦宮」にて、21名（初参加者7名）が集い開催致しました。

年に1回11月に関西に在住しておりますまず工芸高校全日制・定時制出身の同窓生と、数年前からは中京工芸会との交流を兼ねて愛知県より会長と副会長が、関東からは築地工芸会会長と理事・先生の皆様が集い、世代の垣根を越えてお互いの近況や今の工芸高校の様子や卒業生の活躍を知る場となっております。

この度の初参加者の中に、平成26年にI科を卒業され現在奈良県の桜の名所吉野を拠点に、地域起こしと人の縁を繋ぐ場にと手作りキーが評判の出張カフェ《かつべcafe》を主催されている勝部彩子さんと、京都の大学で建築を学び主席で卒業され現在建築関係で独立準備中の細谷



関西工芸会の集い



メリエルアイリーンさん、そして東京からは同じく平成26年卒で若くして築地工芸会の理事の任を受け、工芸高校の発展と卒業生同士の絆をサポートする使命を担うM科出身の藤岡俊平さんが出席して下さい、今後の活躍が楽しみな若い後輩の参加のお陰でいつも以上に会が盛り上がりました。

初参加の1人に私（A科）と同じ平成13年に卒業をした同窓生でG科出身の山田 大さんが参加して下さい卒業ぶりの再会となりました。山田さんは現在山田白米という名で京都を中心に三味線と長唄で幅広く演奏・作曲活動をされ昨年は1stアルバム『今昔おと風景』を発売されました。3月にはこの度の集いで出会った縁で勝部さんが企画するカフェ&コンサートのイベントに山田さんがオープニングアクトで出演することに！

現在1〜3年の在校生・沢山の卒業生の皆様がこの会報をご覧になられ「関西工芸会・中京工芸会という存在があるんだあ」と認知して

頂ける事で、今後同窓の皆様が関西・中京に引越して来る機会にふと思いついた時には、先生や築地工芸会に気兼ねなく御連絡下さい！今後とも宜しくお願い致します。

関西工芸会事務局

ハイジュエリー職人

松田 健（平成13・A卒）

「作る・造る・創る 50年」

丸山 士郎（昭和43・A卒）

工芸を卒業して50年以上が経ち、その間いくつかの企業に籍を置いて様々なものづくりを経験してきました。今は滋賀県に住んでいます。先天性ものづくり症候群のおかげで新製品開発に伴う試作・デザインモデルの制作を手がけるフリーのモデラーとして現役を続けています。今回「こうげい」へのメッセージ寄稿依頼を受け、この場を借りてこれまでの仕事履歴を振り返って見ようと思います。A科（金属工芸科）を卒業後就職したのは本田技研工業。クルマ・バイク・F1・ジェット・アシモなどのHONDAです。はじめは製作所でエンジン周りの部品製造現場配属になり熱間鍛造プレスを担当。1000度くらいに熱した材料を1000tonとか2000tonの大型プレスで一撃、単なる丸棒だった鋼材がほぼ部品の形になっちゃう。これを1日中打ちつづけ真冬でも40度以上になる環境でクラフトには程遠い仕事ですが、この職場で1年半。多少は鍛造に関する知識を身に付けました。その後HONDAの研究開発部門である本田技術研究所に移籍、デザイン部

門に入ってクルマのスタイリングを検討するためのクレイモデルなどを担当。自分の技能や造形感覚をフル稼働させる仕事に就きました。ここではクルマを創るための貴重な経験を積むことが出来ましたが、若気の至りで5年ほどで退職してしまいました。このとき24才。続けていれば今頃は…と考える時もありましたが時は戻りません！その後は知人の誘いで内装業の会社へ。店舗・展示会場などのデザイン・設計・施工などの仕事に就きました。この仕事はHONDAでの経験や造形感覚・技能が具体的に活かされるというものではありませんでしたが、店舗・展示などに関する新たな知識や経験を積むことが出来ました。32才で転職。次は遊戯施設のメーカーに入社して様々なレジャー施設の開発・施工に携わり、全国の遊園地などにコースターや遊覧・観覧の遊戯施設を作りました。この仕事も造形や手仕事の出番はありませんでしたが、地形測量や特殊工作物としての建設大臣認定作業など未体験の仕事のいろいろと経験することが出来ました。その後40才で独立。モデリング&デザインのスタジオを立ち上げて30年を過ぎ現在に至ります。いろいろな分野の製品開発をサポートして来ましたが、最近はおフィスチェアの開発に伴うデザインや試作・モデリングを多く手がけています。

卒業後いくつかの職を転々としたが、70才を過ぎた今も持つて生まれた資質を活かせる仕事を続けている自分分は幸せ者です。

（関西工芸会 会長）

春山文典さん（昭和39年・F卒） 日本藝術院の新会員に

春山文典さんは日本藝術院から、芸術活動で優れた功績があったとして新会員に選ばれました。

令和元年度日本藝術院会員について日本藝術院長より文部科学大臣に上申され、令和元年12月15日付をもって文部科学大臣より発令されたものです。

春山さんの他には歌舞伎俳優の坂東玉三郎さんら6名が新会員に選ばれました。



令和元年度 日本藝術院新会員辞令伝達式

国画会写真部会員 相澤 實◎

春山さんの功績は新聞などで、「工芸。アルミニウムを用いた作品が特徴。2000年日展文部大臣賞・日本現代工芸美術展内閣総理大臣賞。2016年日本藝術院賞」と紹介されています。

春山さんに、日本藝術院の会員に選ばれて感じられたこと、これからの創作活動への抱負について語っていただきました。



春山文典さん 近影

日本藝術院会員に選ばれて

この度、日本藝術院会員に就任させていただき末席に名を連ねること大変光栄であり、深く感謝をいたしております。

私の専門分野は工芸、金属造形であります。工芸高校では木材工芸科（室内工芸科、インテリア科と名称が変わりました）で木材を中心にインテリアデザインを学びました。

芸大入学後は将来の目標としていた空間造形やデザインを学ぶため金属（鋳金）を専攻しました。以来金属に惹かれ、今日まで特にアルミニウム素

材を中心に日展や現代工芸展に出品、展覧会以外にも屋外モニュメントを初め金属による環境造形も手掛けてきました。

まだまだ未熟です。これからも金属素材の可能性を追求し造形への挑戦を試みたく思います。

春山さんの代表的な作品を紹介していただき、その制作意図や作品のサイズ、素材等を解説していただきました。

「炎」

2019年 川口市新郷工業団地創立50周年記念モニュメント
高さ…280cm、横幅…235cm、



「炎」

奥行…48cm

テーマ…時代を牽引したのは炎、私たちのエネルギーの源も炎、炎こそがモノづくりの象徴と考え、かつてキューポラのある町であった川口市にふさわしい鋳鉄を初めて用いて制作。

「天空の廻廊」

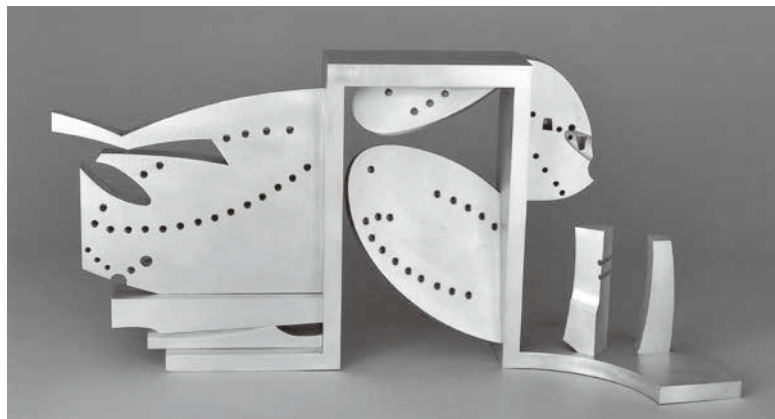
2019年 改組新第6回日展出品
高さ…36cm、横幅…77cm、奥行…22cm
素材…アルミニウム

「キュービック 宙・華」

2018年 改組新第5回日展出品
高さ…42cm、横幅…40cm、奥行…40cm
素材…アルミニウム



春山文典さんの作品「キュービック 宙・華」



春山文典さんの作品「天空の廻廊」

● 校友の活躍

◎ 出品

第66回日本伝統工芸展

日本橋三越本店 本館7階催物会場

・ 染織

鈴木 ゆき子氏 (昭和49・D卒)

ずらし緋織着物「山川草木」

松原 伸生氏 (昭和59・D卒)

長板中形麻地着尺「さざれ縞文」

・ 金工

桂 盛仁氏 (昭和39・A卒)

人間国宝

朱鷺 金具

大沼 千尋氏 (昭和45・A卒)

接合せ花器

・ 木竹工

須田 賢司氏 (昭和48・F卒)

人間国宝

楓連子装小箆筒「以加留賀」

改組 新 第6回展

六本木 国立新美術館

春山 文典氏 (昭和39・F卒)

「天空の廻廊」

田中 照一氏 (昭和39・A卒)

「煌めく」



田中照一さんの作品「煌めく」

尾澤 勇氏 (昭和57・A卒)

「風咲く―太平の秋―」



尾澤勇さんの作品
「風咲く―太平の秋―」

桂 盛仁さんと須田賢司さんが
TV番組「人生宝談」人間国宝
と語る2020」に登場

桂 盛仁さん (人間国宝 昭和39・

A卒)、と須田賢司さん (人間国宝

昭和48・F卒) は1月4日(土)BSフジ

のTV番組に登場しました。この番組

は3人の人間国宝を取り上げる番組

で、桂さんと須田さんの他には、歌舞

伎義太夫の人間国宝・竹本義太夫さん

が登場しました。

須田賢司さんにはタレントの光浦靖

子さんがインタビュールし、桂盛仁さん

には落語家の林家たい平さんがインタ

ビュールしました。おふたりの創作思想

から日常生活まで紹介される興味深い

内容でした。桂さんの日常紹介では、

工芸高校で講師を務める様子も披露さ

れ、A科生徒の実習の様子も紹介され

ました。

中村輝雄さんがTV番組に登場

中村 輝雄さん (昭和38・P卒) が

経営する中村印刷所のヒット商品「水

平開きノート®」とそのクラウドファ

ンディングについて11月21日(木)日本テ

レビの報道番組「スッキリ」で紹介さ

れました。

おとなの工芸祭2019

D科のOB・OGによる作品展示会
「おとなの工芸祭2019」が開催さ
れました。

テーマ「愛・LOVE」

市ヶ谷・一口坂ギャラリー

会場では40名のD科OB・OGの作

品が展示され、元D科教諭 君島昌之

先生の講演もあり、大勢の方が来場さ

れました。



出展メンバー 一口坂ギャラリーにて

木工藝 清雅を標に

人間国宝 須田賢司の仕事展

(昭和48・F卒)

2019年8月2日～9月20日、東陽町、竹中工務店東京本店内の「ギャラリーエークワッド」において公益財団法人竹中大道具館の企画による「人間国宝 須田賢司の仕事」展が開催されました。

竹中大道具館は、1984年に神戸市に開館した日本で唯一の大道具の博物館で、その企画により東京本店内のギャラリーで開催されたものです。

本展の主旨は「ギャラリーエークワッド」により、次のように紹介されています。

日本伝統の木工芸技術は古代から今日に至るまで脈々と受け継がれ、私たちの身の回りの箆笥や箱、家具にも使われています。

本展では、そうした日本最高峰の木工芸に注目し、その「技」と「心」を

引き継いでいる木工藝家・須田賢司氏の作品を通じて、そこに至る日本の木工の歴史をはじめ、伝統の指物から総合芸術たる「木工藝」へと昇華させた工芸の最先端の世界を紹介します。また制作の舞台裏も紹介し、精緻な木工作品を生み出す背景にも迫ります。

須田賢司さんは展覧会終了後、次のように語っておられます。

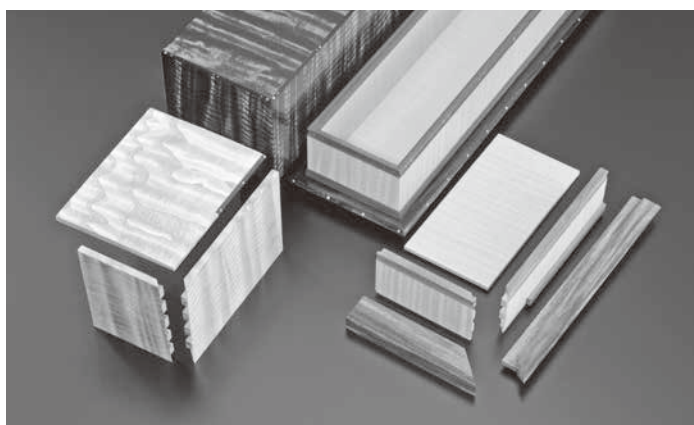
長年の夢が叶い、作品と研究とそしてそれが生まれる現場を紹介する展覧会が実現でき、大変感謝しています。また、期間中、予想外に多くのお客様においで頂きました。これからもまだまだ走り続けるつもりです。



須田賢司さん 近影



展示会場



櫛嵌装長方箱 指物の仕口見本 (左: 蓋、右: 中箱)



須田賢司さんの仕事場



櫛拭漆長方箱

(写真提供: 公益財団法人 ギャラリーエークワッド)

● 校友の活躍

◎ 出品

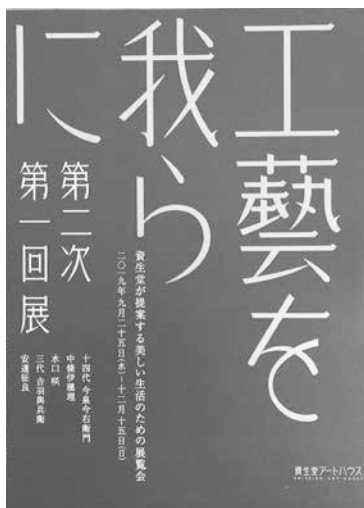
「工藝を我らに」第二次第一回展に
水口 咲さんが出展

(平成5・D卒)

「工藝を我らに」は、2015年から始まった資生堂アートハウスの企画展で、資生堂が、美術品として扱われ日常から遠ざかってしまった工芸品を生活の場に取り戻すという「美しい生活文化の提案」です。

この「第二次 工藝を我らに」は第一次からの作家である陶藝の14代今泉今右衛門さんを中心に、漆藝の中條伊穂理さんと水口咲さん、金工の3代吉羽興兵衛さん、ガラス工芸の安達征良さんの錚々たる5人の作家による展示会です。

この第一回展は昨年9月25日～12月15日に開催されましたが、今年から1年に1回、冬・春・夏と合わせて4回開催されます。



松原 伸生／藍形染まつばら工房展

(昭和59・D卒)

市ヶ谷 一口坂ギヤラリイ



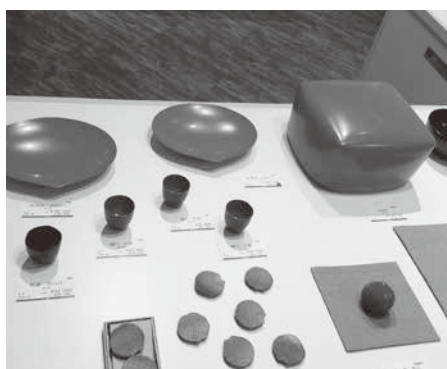
松原伸生／藍形染まつばら工房展

第10回記念

作家による うるしおわんうつわ展

水口 咲氏 (平成5・D卒)

西武池袋本店6階 西武アート・フォーラム

うるしおわんうつわ展
水口さんの展示作品

練馬区立美術館企画展

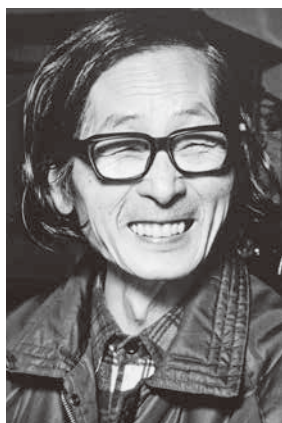
「没後10年 品川 工展」

組み合わせのフォルム

(大正14年・選A卒)

品川工さん(故人)の創作の歩みを紹介する企画展が練馬区立美術館で開かれました。品川さんは工芸高校を卒業、金属工芸の仕事に就いた後、20代から本格的に版画制作を始め、彫刻やオブジェも手がけました。ステンシル、フロタージュ、シルクスクリーンなど、私たちが工芸高校で学んだ手法も駆使され、オブジェはフォークやスプーン、スコップなどを用いて騎馬や虫を作ったユニークな作品もあります。

会期中は親子連れで訪れる人も多く、終始にぎわった展示会でした。



在りし日の品川工さん

スプーンやフォークを用いた
オブジェ

開発力・提案力・デザイン力を
高めてくれる若者の参加を
求めています

sofken.co.jp

レオナルド・ダ・ヴィンチ工房をめざして 医療器の開発に取り組んでいます。



SOFKEN

株式会社 ソフケン

「人のキモチ」をモノに、カタチに



「品川工展 組み合わせのフォルム」会場

母校だより

パラリンピックの陸上競技で使う「こん棒」を工芸生が製作

2020年に開催される東京2020パラリンピック競技大会、陸上競技「こん棒投げ」で使用される「こん棒」のメーカーが国内にはなく、大会組織委員会からオリリンピック・パラリンピック教育の一環として工芸高校定時制インテリア科へ「こん棒」の製作依頼があり、2019年7月からインテリア科4学年の生徒15名がその製作に取り組んでいます。

陸上競技「こん棒投げ」は障がいの重い車いす使用者が、ボウリングのピンに似た長さ約40センチ、重さ約400グラムの「こん棒」を投げ飛距離を競う競技です。規定内であれば「こん棒」の形状は製作者に任せられてお



「こん棒」

り、「こん棒」の持つ部分の形は障がいや投げ方により異なっています。生徒たちがデザイン案を検討する段階で参考にできる写真や映像がほとんどなかったため、競技者から話を伺うことも考えましたが競技人口が少ないためその機会を得られませんでした。生徒たちは話し合いを重ね、学校で学んだ技術を生かし選手の方が使いやすい形状を工夫し、自分たちで試行錯誤の末、持つ部分が球状や円柱形など4種類の形に絞り込みました。

堅さがある国産のブナ材を「こん棒」の素材に使用し、9月から削り出し作業に入り、削り出した「こん棒」に生徒たちがデザインしたロゴをレーザーで焼き付け塗装仕上げを行い、2020年3月までに20本を完成させることを目標に製作を進めています。

樋口裕之副校長の話

築地工芸会の皆様には、日頃より本校定時制課程の教育活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、定時制インテリア科では3年前からオリリンピック・パラリンピック教育へ積極的に取り組み、ボッチャ競技のランプを作製し特別支援学校へ寄贈する活動を行ってきました。このような教育活動と本校生徒の技術力の高さが大会組織委員会に認められ、東京2020パラリンピック競技大会陸上競技で使用する「こん棒」の作製依頼がありました。検討を重ねた結果、

本校の特色ある教育活動を、社会を巻き込む取組に発展させレガシーを残すことを目標に4学年の課題研究授業で「こん棒」を作製することとしました。

生徒たちは、選手の方のことを考えることを始め製作してきました。今回の名誉ある取組への導きは、工芸高校110年を超える歴史と伝統による信頼の賜物であると考えております。先輩方から脈々と受け継がれてきた伝統、ものづくりへの誇りと思いの結晶が今回の「こん棒」です。新国立競技場の空に工芸高校定時制のロゴマークをつけた「こん棒」が金メダルへのアーチを描いてくれることと信じております。

今後も、本校定時制課程発展のためにご教示くださいますようお願い申し上げます。



旋盤で「こん棒」の削り出し



女子生徒による木工旋盤作業

インテリア科4年 西澤直斗君の話

2020年オリリンピック・パラリンピックyearを迎え、いよいよ8月に東京2020パラリンピック競技大会が開催されます。私たち工芸高校定時制インテリア科は、光栄にもパラリンピック陸上競技正式種目である「こん棒投げ」に使用される「こん棒」の作製を組織委員会より依頼されました。昨年から工芸高校定時制4年インテリア科の生徒全員で、使ってくださる選手の方々の思い形状や製作方法を考案し1本1本丁寧に製作してきました。そのこん棒は3月に組織委員会へ引き渡され、8月の本番を待ちます。私たちの製作した「こん棒」がパラリンピックという檜舞台に登場し、新国立競技場の青い空に羽ばたく光景をそれぞれの心に刻みこのミッシェンを通して、工芸高校定時制課程の歴史の新たな1ページとして綴っていきたいです。

クラス会

●昭和39年全日制A科卒日展見学の会

11月16日に新国立美術館で日展見学の担任の安原先生(94歳)と同級生の井出、栗田、里見、坂巻で田中照一氏の作品を本人の解説で見学、その後末広町の越後屋(ヘギ蕎麦)へ移動して昔ばなしのひと時でした。(坂巻亨)

●東芝万年会 令和元年度総会開催

令和元年12月5日(木)に横浜崎陽軒本店にて東芝万年会総会を今回は9名のご参加をいただき開催致しました。

当日は横浜駅中央改札口外に集合し、その後崎陽軒本店へと向かいました。本年は幹事長の室谷さんが欠席され、また、佐藤さん、竹内さんのご逝去という不幸がありました。それを乗り越えての思い出に残る万年会となりました。



昭和39年A科卒日展見学の会



昔ばなしのひと時



東芝万年会 令和元年度総会

『あわいゆくころ
陸前高田、震災後
を生きる』
(晶文社)

ください。
も書店で是非ご覧
持ちでない皆さん
い本です。まだお
てゆくり読みた
らしく、手で持つ
聞くことができま
備の苦労話なども
やデザイナーとの
講演会では編集者
めた著書を出版し、

母校だより

●瀬尾夏美さん講演会

2019年9月4日、デザイン科卒業生の瀬尾夏美さんによる講演会を行いました。瀬尾さんは本校卒業後、東京藝術大学先端芸術表現科に進学。学部を終え大学院への進学を控えた3月

11日に東日本大震災が発生し、すぐに大学の同級生と2人で被災地を巡り、ボランティアを続けながら翌年には岩手県陸前高田に移住。2014年から拠点を移し、アート、文筆活動、法人の運営など活動は多岐にわたります。講演ではアーティストとして「表現とは何か」という問いに向き合い続ける現在の活動のほか、情報発信におけるSNSの活用方法、写真やプロダクトデザインの授業が好きだったという高校時代や、受験勉強についても語られ、生徒たちは先輩と自分自身を重ね合わせながら、熱心に話に耳を傾けていました。

瀬尾さんは昨年、震災から7年間Twitter (<https://twitter.com/seonatsumi>) で綴ってきた記録をまとめた著書を出版し、講演会では編集者やデザイナーとの

2019年度工芸祭

2019年度工芸祭は、10月26日(土)・27日(日)に開催されました。保護者、中学生、卒業生をはじめ大勢の皆さまが来場されました。

・プログラム…(全) 3年グラフィックアート科
・ポスター…(全) 3年デザイン科
・記念パッチ…(全) 3年グラフィックアート科
砂川 昂
野口 葉
渋谷 魁



瀬尾夏美さん講演会の様子

真の教育者

牛込源晃先生(元教諭)を悼む

森谷 延周(昭和32・F卒)

●牛込先生と都立工芸

お元気だった牛込先生が令和2年2月4日永眠された(享年95才)。同校での在職は昭和25年秋～41年春。社会科の教諭で、その間クラス担任を4回、計161名の学生をリードされた。

先生は清廉・謙虚・温和な性格、勉強熱心で、酒は付き合い程度。人との会話はいつも穏やかで丁寧、それには皆、恐縮していた。

また服装は、いつもお会いしてもダブルのスーツ、よくお似合いでトレードマークになっていた。

●牛込先生の指導の一端

先生の得意とする授業は「世界史」で、授業を始める前に、まずソビエトの機関紙「プラウダ」によると…と、まず世界情勢、世の中の動きを話され

てから、教科書による授業に入った(このような例はあるだろうか)。

また、クラスメートからこんなこともあったと聞かされた。

授業熱心の先生一方で、複数の生徒が席の前後、隣同士でおしゃべり。すると先生、これらの生徒に対し「あとで職員室に来るように」と一言。恐る恐る行くと、お説教は無く、「席へ戻りなさい」と一言。何とインパクトのあるお説教ではないだろうか。これは先生の教育思想そのものだと思う。

●牛込先生と私

先生と私の初めての出会いは、全日制木材工芸科に入学した16才(昭和29年4月)。

私は幼少時に父を亡くし、いわゆる片親のもとで育った。入学したものの授業料が滞り、先生に退学を相談した。

先生はすぐに「親愛なる森谷君へ」と心温まる励ましの手紙を下さり、その後、顔を会わせてさまざまなアドバイスを下された。

の便箋に回答をしたため、返信を下された。

この2通の手紙は、私にとって大切なお守りとして、今も所持している。

●牛込先生とクラスメート

私たちは昭和32年3月に卒業したが、皆、仕事優先で「クラス会」の開催は断続的だった。しかし、還暦を過ぎた平成14年、私は複数のクラスメートに隔年開催を提案、以降、お互いに協力し合って「傘寿の祝い」の80才まで、毎回、牛込先生(先生は皆勤賞)

をお招きして「クラス会」を開催することができた。先生は毎回、有意義な話をして下さった。出席したクラスメートは昔の授業を思い返し、先生との「絆」を改めて実感できたのではないだろうか。

●先生と次代を担う子供たち

先生は足立区西新井に長く居住。広い敷地は木造の黒い塀に囲まれ、庭が多種の木々で覆われている。多少起伏があり、大きな石をひっくり返すと、色々な虫が顔を出す変化に富んだ庭。先生は1年中、地元の小・中学生に解放。遊び場だけでなく「生きた学習の場」にしていた。

都立工芸では「木材工芸科」の担任を務めて「木々」に接し、一方、自宅では庭の「木々」を愛し続けた。

先生との65年にわたるご指導に感謝し、ご冥福を祈念したい。

●卒展は中止されました

2月29日から上野・都美術館で開催されるはずだった卒展は中止となりました。長い時間をかけて真剣に準備を進めてきた作品を展示出来なかつた卒業生たちの心中は、察するに余りあります。そんな中でも卒業生たちは卒業制作を学校外に発信する試みを始めています。後輩たちの努力を見守りましょう。



G. Ushigome.

愛用された先生のサイン

もう1つは卒業寸前の18才。その頃の私にとって柄にもなく、「人はなぜ生きる」「男性と女性の存在」といった、半ば哲学的・宗教的問題を先生に尋ねた。すると先生、8枚

広告制作会社 たきグループ
グループ創業者 滝澤方美 D3 [昭29]

[株]たき工房
[株]たきホールディングス
[株]日本コマーシャルフォト
[株]プラン
[株]ワークアップたき
[株]インパクトたき
[株]たきC1
[株]タクト

株式会社たき工房

本社:〒104-0045 東京都中央区築地5-3-3 築地浜離宮ビル14F TEL:03-3524-1351(代) URL:http://www.taki.co.jp